

Sea Breeze 78 湘南学園は、創立78年です

恩師をたずねて 福森喜久臣先生(数学・物理)

在校生紹介 大脇さん・醍醐さん

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会公式サイトで検索 <http://shogak-doso.org/> シリーズ 湘南学園史 第2回

「東北地方太平洋沖地震」により被災されました多くの方々に、心よりお見舞い申し上げます。

母娘で学園 鶴田順さん・鶴田真由さん

私たちの湘南学園

1970年代後半、江ノ電に揺られて通いました
娘・鶴田真由(小S57年度卒)

先日、某雑誌で1970年代の湘南の町の様子を目にしました。その写真に写っている住宅街のこみちはまだ未舗装で、周りの家々も木造。モノクロだったこともあり、



撮影：三浦憲治

まるで戦前の写真でも眺めているかのような気分になりました。けれども、この当時、私は江ノ電に乗り、湘南学園へと通っていたのです。生まれて40年。その40年間の世の中の移り変わりのスピードに目眩がしそうでした。

学園には幼稚園の途中で編入しました。その前に通っていた所はプロテスタント系で、規律も厳しかったので、おてんばだった私には性格的に合わないと思ったのか、もしくは母の愛校心からかでしょうか。母の思い描いていた通り(?)、幼稚園・小学校と私の個性は素晴らしい先生方によってぐんぐんと伸ばされていきました。

小学校の頃、ピアノを習っていた私は、合唱コンクールの時や朝礼で、歌の伴奏をやらせて頂いていました。指揮者のタクトに呼吸を合わせ、ピアノが奏でられる。そして、それに引っ張られるように歌が始まっていく。ほどよい緊張感と高揚感。思えば、これは今、女優として舞台に立つ時のよい練習になっていたのではないかと思います。

私たちの学年は特に個性的な人たちが多く、かなりの問題児の集まりだったようです。湘南という土地柄も手伝ってか、今でもつき合いのある友人達はみな、自分なりの価値観のもとに楽しく生活をしている人が多いです。幼稚園・小学校で学んだことは心と体に記憶され、それが「私」という人生の土台となって「今」なお構築され続けているように思います。そこでの経験がいかにその後の人生を左右するか。この歳になって改めて思うことの一つです。そんな大切な時期にこの湘南学園と出会わせてくれた両親、そこで私を育てて下さった先生方に改めて感謝の意を表したいと思います。そして、これからもそんな学園であって欲しいと切に願っています。

鶴田真由(女優) 映画、TVドラマ、舞台、CMと幅広く活動。凛とした力強い演技が目される。96年日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。自然体で飾らない姿と独自の視点からのコメントが支持を得て、旅番組、ドキュメンタリー番組などへの出演。神話をひも解き日本の源を探るプロジェクト「ニッポン西遊記」を始動。WEBサイト、雑誌「ディスクバー・ジャパン」にて掲載。 <http://tsurutamayuu.com/>

1960年代、アメリカに憧れたあの頃
ゆっくり明るい時間が流れていました

母・鶴田 順(旧姓吉村・高S36年度卒)



1960年朝礼にて AFS留学生(左からアンさん、ジェフさん、デイヴットさん)

私が通っていた頃、学園には制服がありませんでした。校庭には松林、周りには塀もなく、校舎は木造でペンキ塗り。女子は思い思いの洋服、男子は行事がある時は学生服、普段はセーターなど。学園生活は全てにゆっくりしていて、明るく、自由な雰囲気に満ちていました。

丁度、1961年に大統領になったケネディーは、自由と豊かさの象徴。60年代前半のアメリカは活気があり、私

達は戦争に負けたにもかかわらず、そんなアメリカに憧れ、ロックンロールを聴いては喜び、映画を見てはアメリカの生活をうらやましく感じていたものです。

夏の野尻湖や、秋の運動会のフォークダンスでは、男子は女の子の、女子は男の子の服を着て踊るのですが、好きな男の子が巡ってきて一緒に踊るのが、楽しみでもあり気恥ずかしくもありました。修学旅行の前は、どんな洋服を着ていくかが、女子の間での大変な関心事。今のように素敵な既製服がなかったので、「セブンティーン」を見て、同じような洋服を作ってもらっていました。

高二年の時、アメリカからの留学生アンが、同級生の小西さんの家にホームステイしていました。私達もパーティーに招かれたり、仲良く一緒に遊び、勉強しました。そんな事もあってか、高校や大学を卒業後、何人もの同級生が海外留学しています。また、楽しい思い出は、その後の私の人生に大きな影響を及ぼしたと思います。娘が生まれて学校を選ぶ時、私と同じ明るく自由な学校生活を送って欲しいと考え、迷わず湘南学園を選びました。娘・真由も幼稚園と小学校を学園で過ごし、その頃の経験は彼女の人格形成に大いに役立っているようです。

同窓会活動報告

松ぼっくりフォーラム

森稔氏(中S24年度卒)講演

ヒルズ屋上は「田んぼ」ユニークな発想

昨年6月26日(土)の午後、2010「松ぼっくりフォーラム」が開催された。学校法人湘南学園、湘南学園PTA、湘南学園後援会の三者と同窓会が初めて手を結んだ企画。中高アリーナは生徒、保護者、同窓生、後援会の皆さん、近隣の方々など、約700人が集まり、「魅力ある都市再生への挑戦～立体緑園都市“VERTIALGARDENCITY”構想～」と題した、森さんの講演に熱心に耳を傾けた。大都市東京の再生に、「立体緑園都市」構想を打ち出し、長

年に亘り苦勞して地域住民の方から理解を得て構想実現に漕ぎ着けたことなどが語られた。講演締めくくり、在校生へ、「謙虚であれ！貪欲であれ！」「龍になれ！雲自ずから集まる！」の二つの言葉が贈られました。(広報部)



撮影：村田わかな

50年目の宿題提出

絆深まる学園祭、50年の時を越えて

桑島宏忠(高S33年度卒)

7回生の私達16名は「50年目の宿題提出」というタイトルで学園祭へ参加。それぞれが日頃培ってきたものを、書・墨絵・写真・手芸・絵画・彫刻などの分野で展示することができました。卒業後、早50数年、在校時代は勉学に忙しく？かといって何かやり残した感があり、古希を迎えた今、日頃は別々に活動していた我々ですが、この企画のもとに集まり、学生時代に戻ったがごとく喧々諤々、そして隠れた才能をお互いに再発見再認識し合い、より一層絆を深めることができました。集まれば50数年のギャップはすぐにうまり当時の学生気分に戻りワイワイガヤガヤ。今回の収穫はこの絆がより一層深まったことですが、次回からは7回生以外にももっと素晴らしい作品をお持ちの諸兄が一学年にとどまらず横断的に発表するなど学園祭イベントになることを期待しております。多くの皆様に見ていただけたこと、学園からは素晴らしい会場をお借りできたことなどと感謝いっぱいです。

「湘南学園を思い出す」 1960年代

河野 一郎

医師 高S39年度卒

「ショウナンガクエン」、なんとも心地よい響きだ。学園を卒業してもうじき半世紀近くになるというのに……今の時代では考えられないほど自由にストレスなく育ててくれた当時の学風、鶴沼という土地、楽しい学園生活だった。

卒業して医学部にいき、内科医として大学病院での勤務、大学での教育・研究の道を20年ほど歩んだ。

ところが、なんのはずみか、スポーツ医学に専門がかわり、ついにはスポーツそのものに関わるようになって



カルガリーにて

た。ラグビー日本代表の強化委員長、オリンピック日本選手団の役員、アンチ・ドーピング組織の設立などなどである。湘南学園がフレキシブル人間に育ててくれたおかげかもしれない。ついには、2016年東京オリンピック・パラリンピック委員会の事務総長まで引き受けてしまった。開催権はリオデジャネイロに譲ったが、タフな仕事の分ユニークな経験をさせてもらった。国内外の多様な舞台を数多く踏むこともできた。招致を戦ってみて、日本の国民も政府も内向きで躍動感やエネルギーが無いことに愕然とした。なんとかならんかな〜と思う。久しぶりに「ショウナンガクエン」の周りを訪ねて、日本に活気のあった60年代「三丁目の夕日」の時代を思い出し、頭を柔らかくして次世代を考えてみたくなった。

蕎麦処 相模屋

竹内公一さん(幼小在籍)

小田急本鶴沼駅近くに一昨年オープンした、元フランス料理シェフ竹内さんのお店。蕎麦は会津産極上そば粉を使用した本格手打ち。他に料理人としての経験を生かし、厳選された相模湾の季節の魚、岩手産の合鴨、春には山菜を使った料理もお奨め。話はずみ、そば好き、左党にはたまらない。また、女性にも人気の一軒。湘南散策の折には是非お立ち寄り頂ければとの談。

(要予約) TEL0466-21-6088



フラ、そして、自然の一部として

井上 真紀

ヴォーカリスト・舞踊家 高S55年度卒



<http://www.lovenotesjoy.com>

東北大震災は自然への畏怖畏敬の念を忘れてはならない事を、改めて実感するものでした。

割れたガラスと本が散乱した高層マンションの自宅を二日掛かりで片付け、犬三匹と共に湘南の実家へ…。自然の近くに身を置く方が安堵できる気がしました。窓の外の竹林が風の形に大きく揺れ、少し歩けば、海の向こうの空を茜色に染めながら沈んでゆく太陽。湘南の自然は、その美しさで語り掛けて来る様でした。「自然は完璧なのだ。酷くもあるがやさしくも

あり、全ての繋がりの中、一つの大きな法則の上に成り立っている。」風、木、海、山、動物も鉱物も…、自然の一部であり続けるものは常に完璧なのですが、人間だけは、そこから外れた行動を選択する自由を得た分、道を誤ったら、とことん迷子になってしまうのです。

古来日本人は、優れた自然観や美的価値観を持ち、自然の恵みを優雅に受け取ると共に、畏敬の念を決して失うことはありませんでした。利便性や利潤追求に価値を置いてきた近頃の私たち人間は、真実、愛、美を第一に考えて行動する必要があると確信します。今回の災害を通して、多くの人々の心の中で、何かが大きく変わったのではないのでしょうか。

cafe 坂の下

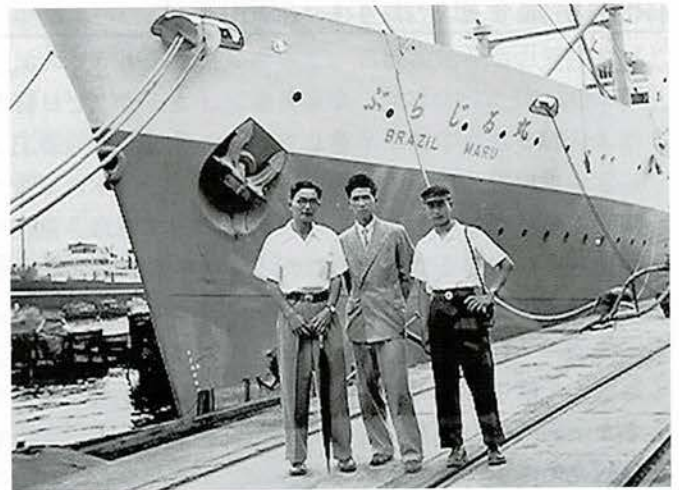
真子舞さん(旧姓小川・高H4年度卒)

鎌倉の海辺の路地に建つ古民家カフェ。真子さんがご自分の感性に合わせ1年かけ改築された。店内には和洋折衷のアンティーク家具を置き、懐かしく癒される空間を作り出している。人気はマスコミにも取り上げられた野菜中心のランチやパンケーキのスイーツ。併設のSMOKE ROOMではビンテージ雑貨をショッピングできる。 TEL0467-25-0057

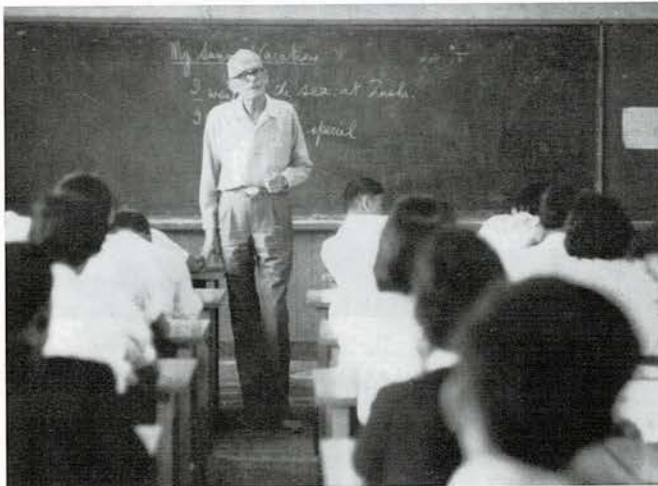




1934年(昭和9年) ヒルデブランド先生による
デンマーク体操指導(片瀬海岸)



1954年(昭和29年) 神戸港よりブラジルへ向かう



1963年(昭和38年)頃 マレスコ先生による英語の授業
黒板の文字は「My Summer Vacation」



1955年(昭和30年) 横浜港より神戸経由でブラジルへ
3回生本庄氏を見送る



1955年(昭和30年)頃 マレスコ先生近影



1978年(昭和53年) 東校舎 高校LL教室

ブラジル物語 湘南学園卒業生ブラジル雄飛の50年



1957年 左から篠崎氏、本庄氏
バンコ東山エントランスにて

きっかけは
江ノ島釣り会談

内藤学園父兄会会長、
君塚ブラジル大使が
学園生へ託した
ブラジルへの夢

かねてからブラジルに夢を抱いておられた内藤長一さん（当時・学園父兄会会長、銀座菊水社長）は、当時の日本の世情、青年たちの現状を憂い、夢多きブラジルで青年たちの新しい天地を作らせてやりたいとの思いを抱き、戦後初のブラジル大使として赴任が決まっていた君塚慎さんへ伝えました。半世紀以上も前になるある日に江の島の鳥影で釣り糸を垂れながらのことでした。

君塚さんも「自分もかねてから考えていたことだ。ブラジルは大事なところ、立派な青年が行って活躍するのは大賛成。できるだけ力添えはする。ただ軽はずみな気持ちで来て貰っては困る」と胸襟を開き、当日の船上の成果は釣り上げた魚より大きかったものがありました。

間もなく、赴任先の君塚さんから、候補会社と接触し、承諾されたとの連絡が内藤さんへ入りました。候補会社は三菱の岩崎弥太郎氏長男の岩崎久弥氏がいわゆる三菱グループとは別に岩崎家直轄事業としてブラジルに広大な耕地を取得、コーヒー豆プランテーションなどの事業をはじめていた「カーザ東山」です。事業内容は日本の三菱グループを小さくした形で商事部、銀行部、酒造部、農事部などがありました。

その頃の学園は一学年一クラスしかなく全員の顔と名前が判るような家庭的な学校でありました。

1959年 農場にて捕まえた大蛇 中央が本庄氏



昭和29年、さっそく内藤長一さんは、学園高校卒業生の中で希望者がいれば、年間一人位ブラジルに送ったらと学園に提案さ

れました。選抜条件として、成績もさることながら、まず体が丈夫であり、意志がしっかりし、家庭の全員が納得すること、内藤さんはまだ理解が乏しいブラジルのことや赴任する会社の説明に奔走されました。それを受けて2回生若山芳雄さん、3回生本庄敏二郎さん、4回生篠崎勇策さん、6回生佐藤隆幸さん、7回生米原啓三郎さん、8回生間島二郎さんがブラジルに飛び立ちました。

約40日の船旅の末にやっとブラジルサントスの港に第一歩をしるした学園組はカーザ東山の中の銀行部（バンコ東山）に配属されました。バンコ東山は、スリーダイヤのマークを付けブラ



1957年 左から本庄氏、若山氏、篠崎氏

ジルにおける三菱銀行という立場で、のちに三菱銀行と合併「ブラジル三菱銀行」となりました。

渡航した6名の内、篠崎さん、佐藤さんは残念ながら病に勝てず亡くなくなりましたが3名の方々は現在も在ブラジルで家族とともに生活されています。

湘南学園というごく少人数の学園の卒業生が6名も海外雄飛の夢を抱いてブラジルに渡ったということは今とは違って当時としては大きな出来事であり、現在の在校生諸君たちにもこんな先輩たちがいたのだと言うことを覚えておいて貰いたいと思います。

今回は7回生の米原さんのエピソードなどを中心に書きたいと思っていますが、彼はストライキが頻発していた酒造部に一時配属され、東麒麟（アズマキリン）という名の日本酒を造っていたそうです。彼らの経験を日本とブラジルの文化の違いなどを交えて書いていきたいと思ひます。 次号をお楽しみに。（本庄弟・桑島）

1959年 左から佐藤氏、本庄氏、米原氏、篠崎氏



恩師を訪ねて

福森喜久臣 先生

昭和29年～平成3年 中高数学、物理を
ご担当の福森先生よりご寄稿頂きました



1954年着任した学園の建つ鶴沼という地は、思えば明治・大正・昭和と二十世紀西欧の文化の調べが、松の香りと共に馥郁として奏でている土地であったと懐かしく思い出されます。二十年前に離れ平成の激動を越えて建つ学園の勇姿は、遠く画の如き存在となり、想像以上の懐かしさを感じる現在です。三重の伊賀の里（忍者もいた…）での生活は寔に晴耕雨読の落ち着いた生活といえは恰好良く聞こえるでしょうが、内容は、テレビの情報にうつつをぬかし、歌舞芸劇を楽しみ、スポーツテレビ観戦で血をわかせるミーハー（古語か？）的生活のくり返しです。ちょっぴりの畑仕事、切れぎれの読書、気分まかせの趣味の散々な生き様といった方が適切で、おはずかしい限りです。心の救いは、年に一、二度の卒業

生の集いに招かれ、新時代の息吹にふれては、社会の仲間入りが出来た気になって、自己満足と活力発揚を感じ明日への望みとしております。集う度に、成長して行く生徒諸君…社会の中核となり、調和に導くすばらしい人間に育って行く姿を、自分の生甲斐と羨望をもって接しられる自分に讃歌を送っています。目標・志は個々であっても、紺青の旗のもとに育った今こそ同胞であり、社会の荒波をも乗り越える水先人として活躍されんことを願うものであります。T字の脳活動「左右学」*による広



い知識と深い専門の知識をみがき、テーブルマナーを良くする人に育って下さい。招く人招かれる人は互いの僥倖を願う良き世界人となられる事を望み、…諸手に掲ぐ紺青の…と口遊みながら喜びをもって口説を終えます。趣味として聖書物語（旧・新）ギリシャ神話を描いて楽しんでます。

*西山賢一氏著「左右学への招待-自然・生命・文化」[免疫ネットワークの時代]

在校生紹介

書道パフォーマンス 大脇ひとみさん

(取材：広報部)



先般、書写能力検定の全国審査で全国約5500人が競い合う中、高校2年の大脇ひとみさんが、見事、最優秀賞に輝いた。学園の卒業生であるお母様の玲子（旧姓寺内）さんの勧めで、小学校3年生から学園に編入。字が上手になりたいと、書道を始めたのも丁度その頃。今では、「書道パフォーマンス」に熱中し、書道

部の面々と、何畳敷きもの巨大な和紙の上に大きな筆を走らせ、作品を作り続けている。普段の彼女も屈託のない明るさで物怖じせずと言った印象。また、多彩な才能は書道だけに留まらない。ピアノは幼稚園年中から続けていて、音大目指して猛練習中だとか。今後の活躍に期待すると共に、皆で応援して行きたい。

盤と向き合う

醍醐かえでさん(高3)

(寄稿して頂きました)

将棋部で4年ほどすごしてきた、私は今自分が納得できる将棋を大事にしています。自分のやり方に不安になり、教えてもらったことを無理に覚えようとした時期もありました。でも今では自分の将棋を指せばいいんだと心から思います。自分が納得できれば後悔はしません。それは、将棋に限らず言えることだと思います。私はこれからも色々なことに努力し、湘南学園で過ごせる最後の1年を悔いのないよう過ごしたいと思います。



2010年度実績

- ・第21回関東地区高等学校文化連盟将棋大会第5位
 - ・第19回全国高等学校文化連盟将棋新人大会決勝トーナメント戦進出
- など多数

湘南学園小学校が

すっかり生まれ変わります

中高では国際交流、語学研修・海外留学制度も

学園長 仲本 正夫

創立80周年記念事業のひとつとして取り組まれている湘南学園小学校の改築工事は、第1期工事が終わり、貝殻をモチーフにした美しい曲線を描いた3階建ての校舎が姿を現してきました。4月から4つの学年がこの新校舎を使うこととなります。この新校舎1階には、最新の情報設備を備えたメディアセンターがもうけられ、各学の総合学習や教科の学習をサポートします。

4月からは東校舎・小ホールを解体した後、第2期工事が始まり、屋上にプールのある体育館棟が建設され、長い歴史をもつプールも解体されて新しいグラウンドに生まれ変わります。完成は2012年（平成24年）9月の予定です。先生たちも新しい校舎にふさわしい小学校への改革に取り組み始めており、2012年度には、公開研究会も

開こうと授業や研究活動に力をいれています。

中高の新しい動きとしては国際交流があります。昨年はオーストラリアのノックス校の生徒たちがやってきてホームステイをしました。カナダ・韓国への語学研修も行われています。また非常に希望の強かった海外留学制度も整ってきました。創立80周年に向けて、湘南学園は幼小中高の連携を強め、湘南学園の良さを広く発信していくことにしています。



完成した小学校新校舎 貝殻の形をモチーフにした美しい外観

学園トピックス

【中学校高等学校】 中学の入試が終了しました。今年は6年ぶりの午後入試再開、4年ぶりの4日間の日程で、受験者数は昨年比255名増の806名となりました。4月8日には190名を超える新1年生が中学生生活をスタート、高校では3月5日に卒業式を迎え198名が巣立っていきました。

【幼稚園】 保護者アンケートの結果報告書が出されました。入園志望の動機は「魅力があったから」が回答者の約9割で、中でも教育方針、教師の質がよかったとのことです。

【PTA】 今年度から始まった「湘南学園てらこや」

が好評です。第6回（3月5日）はベルリンの国際ピアノコンサートで優勝した本校4年生千田りえ菜さん他の「地球の未来を考えるミニコンサート」などです。

【東日本大震災に関連して】 地震発生、大津波警報の発令と同時に学園が避難所となり、300名を受け入れて、事務局職員が市職員と共に対応し感謝されました。宿泊された約70名には翌朝、PTAと中高教員がおにぎりと味噌汁の炊き出しを行い、大変喜ばれました。中高生も100名弱が帰宅できず、一晩学園で過ごしました。3月14日に予定されていた小学校児童たちによる東校舎のお別れ会は、残念ながら中止となりました。



高校卒業式風景（3点とも）

創立80周年に向けて

創立80周年を目指し風を起こす!!

同窓会長 佐藤 允(中S27年度卒)

2007年秋、学園同窓会の有志が中心に、湘南初の「平尾昌晃チャリティーコンサート」成功が新生同窓会のスタートをきった。2008年春、新組織で中長期計画を作り、活性化を図り試行錯誤ながら2009年、2010年と毎年、確実にモラルと実行力がアップして来ている。これまでの同窓会の冷海域(無理海、無関心海、会費海、おせっ海……)が温暖海域(ボランティア海、参加海、応援海、やり海、母校愛海……)へと変化して来ているのが実感できる。

2011年も7月2日は総会の日、元NHKプロデューサーで第一回中学卒

の鈴木健次氏の「松ぼっくりフォーラム」チーム湘南学園共催。80周年事業に歴史資料館がある。単なる教育資料の展示でなく、世代を超えた多様な同窓生と在校生、クラブの後輩と親しくコミュニケーションが出来るミーティングスペースの設置など同窓会が中心となって提案している。現在皆さんの努力で同窓会は良い流れにあるが、

1. 若手、中堅メンバー問題等
2. 入会率と会費納入率

の難問を抱えている。しかし、これを解決するには「いつ、エネルギーとアイデアのある若手に、スムーズなバトンタッチが出来るか」が最大の課題である。

学園と同窓会は太陽と月の関係だ
太陽が輝けば、月の光は増す

湘南海岸は澄み渡る
青空のもと新たな歴史へと
湘南学園は歩み続ける
創立八十年から百年に向けて
同窓会はパートナー
永遠の存在なのだ



募 集

情報をお寄せ下さい 同窓生のお店や展覧会、こんな面白い人がいるなどの情報をお待ちしています。
編集スタッフ募集 広報紙編集や取材、HP運営をお手伝い下さるボランティアを募集しています。
何れも、同窓会ホームページの「お問い合わせ」よりご連絡下さい。

事務局だより

新卒生自動入会制度再開

ご尽力頂いた皆さまへ
深く感謝致します

同窓会の皆様

日頃は同窓会にご協力、ご支援をいただきありがとうございます。同窓会では、しばらく途絶えておりました新卒生生の「同窓会自動入会制度」復活を念願としてまいりました。

この件に関しましては仲本学園長はじめ、教職員の方々、理事の方々、PTAの方々に多大なご協力をいただき、本年3月の卒業生から自動入会制復活の第一歩を踏み出すことができました。関係者の皆様に深く感謝

の意を表します。おかげさまで、約140名(高校卒業生の約70%)を新たに同窓会に迎え入れることができましたことをご報告いたします。

また、昨年度も年会費とともにご寄付をいただいた方々に対し、厚く御礼申し上げます。

本年もこのSEASIDEに同封いたしました「会費納入のお願い」をご参照の上、会費のお払い込みをよろしくお願いいたします。

同窓会はこの度の東日本大震災の犠牲者に対して深く哀悼の意を表すとともに、被災者に対して微力ではありますが支援いたしたく思います。本件につきましても同封の資料をご参照下さい。

行事予定

- 2011年7月2日(土) 同封案内参照
9:30~10:00
平成23年度通常総会
場所:湘南学園中高ホール
10:30~12:00
松ぼっくりフォーラム
場所:湘南学園アリーナ
講演:鈴木健次氏(中S24年度卒)
- 2011年10月1日(土)・2日(日)
学園祭・同窓会ルーム開設
学園センターエリア3階大会議室



松ぼっくりフォーラム

講演:鈴木健次氏
同窓会ホームページへ掲載中

SEASIDE Web は、湘南学園同窓会公式サイトで検索 <http://shogak-doso.org/>

(写真2点とも 村田わかな)